

令和 8 年度松山観光バス株式会社 運輸安全マネジメント実施計画書

～私たちは日本一感動を与えるバス会社を目指します！！

～蠟燭は我が身を削り、周りを照らす。With one mind～

スローガン： 好事魔多し、油断大敵 基本動作が安全創造

1. 運輸の安全に関する基本的な方針

1. 輸送の安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、社内においては社長自らが輸送の安全の確保と関係法令の遵守に主導的な役割を果たします。

また、現場における安全に関する声に耳を傾け現状を十分に踏まえつつ、輸送の安全に確保が最も重要であるという意識を全社員に徹底いたします。（毎月の安全会議）

2. 輸送の安全に関する計画の策定、実行、チェック、改善を確実に実施し、安全対策を不断に見直すことにより、絶えず輸送の安全性の向上に努めると共に本件に関する情報については、積極的に公表いたします。（ホームページ、FACEBOOK、インスタグラムに随時、更新）

2. 行動指針

1. コンプライアンスを遵守します

最大の企業ミッションである安全を確保するために旅客自動車運送事業及びその他の事業にかかる関係法令を遵守します。

2. 安全・安心運行に努めます

車両の整備・点検により故障を防止し、輸送品質の維持向上に努め、確実な運転操作により安全運行に努めます。

3. 安心、安全な快適なサービスとホスピタリティを提供します

お客様第一主義を掲げ、快適なバス旅行を提供できるようバスの清潔保持に努めます。またお客様の立場に立ってサービスを心がけます。

4. SDGsを推進し、社会へ貢献していきます

アイドリングストップや環境負荷の低い車両への取り替えを進めるとともに、廃棄物の抑制、資源の節約など環境保護に取り組み、環境保護に努めていきます。また企業市民として地域と共生し、社会貢献に努めます。

5. 職場環境を整備します

衛生的かつ働きやすい職場環境の整備に努め、はつらつとした職場をつくります。

6. 常にチャレンジ精神を持ちさらなる努力をします

自分の成長を求め、仲間の成長を支え、革新に挑戦します。

3. 目標の設定

| | |
|-------------------|-----------|
| (1) 重大人身事故（第一当事者） | 0件（7年度0件） |
| (2) (1)以外の人身事故 | 0件（7年度0件） |
| (3) 有責物損事故 | 2件（7年度3件） |
| (4) クレーム件数 | 1件（7年度2件） |
| (5) 車両故障 | 1件（7年度3件） |

～令和8年度安全目標～

- ① シートベルトの徹底（目視）、出発時のアナウンスの徹底！
- ② 回送時、気の緩みなく運行しよう！
- ③ 速度制限を守り、交通ルール、法令順守！！
- ④ 乗降時毎、安全確保の一声を！！

輸送の安全に関する投資額

- (1) 車両管理、自動点呼システム（バス紀行） 820,000 円
- (2) 外部講師、月一回の安全会議 30,000 円
- (3) 塩害による下回りの補強、シャシ塗装 5,000,000 円
- (4) 適性診断 30,000 円
- (5) 運行管理者・整備管理者講習 20,000 円
- (6) 健康診断ほか（2回） 300,000 円
- (7) IP無線ランニングコスト 500,000 円
- (8) 車バス購入（大型1台） 48,000,000 円

4.目標達成のための計画

(1) 運行管理体制の充実強化

ア. 点呼及び指導監督などの運行管理業務を確実に実施できるように運行管理者制の確立（運行管理部長→安全統括者のチェック機能の強化）

イ. 運行管理代務者、運行管理者資格の積極的増員

ウ. 顧問である菅野社会保険労務士に出発前後の労務管理のチェック依頼

エ. ラインワークスなどSNSを利用し乗務員、内勤との社内連絡体制をスピード感をもってコミュニケーションを図りミスのない運行管理を構築していく。

オ. IP無線にて、GPS位置情報によるさらなる運行把握、渋滞、道路情報をリアルタイムで乗務員に情報提供し、安全を創出していく。

カ. 自動点呼にて、運行管理者の実務軽減につながることで生産性の向上をめざす。

(2) 教育及び研修の充実強化

ア. 月一回の安全会議の実施を行い、乗務員と経営者、運行管理者が一丸となって安全指導、組織体制の確立を図るべくコミュニケーションを図る。

安全会議では起きた事故、交通違反を事例に事故防止に努め、全社で共有する。

またマンネリ化を防ぐよう外部講師を多くする。

イ. 一般適性診断、高齢者65歳以上には1年に1回適性診断を受診させ、運行管理者による個別指導を確実に行う。

ウ. 運転者講習会（バス協会主催）に積極的に参加し、安全運転の意識高揚を図る。

エ. 会議体をグループディスカッションを増やし、一人ひとりの参加型に変えていく。

オ. 教育、研修の様子をホームページ、FACEBOOK・インスタグラムに公表し、

お客様に最大の安心を寄与する。無限の安全が安心を創りだすことを忘れてはならない。

カ. 机上より実技を増やし、身体で言動できるようする。

- (3) デジ7、ドライブレコーダーによるヒヤリハット収集を活用
デジタコによる速度の厳守、急発進、急ブレーキの抑制による事故防止、
運転ランキングによる競争意識の高揚、エコドライブ講習の参加による環境保護
の社会貢献（チームマイナス6%参加）
- (4) アルコールチェッカーの活用
運行前後、遠距離の場合携帯用アルコールチェッカーの義務による飲酒運転撲滅
ASK 飲酒運転防止インストラクターによるアルコール知識向上
アルコール撲滅キャンペーンの指導 遠距離の携帯アルコールチェッカーの増設
- (5) インセンティブ制度の活用
令和8年度表彰制度
(デジタコランキング、事故など)を総合的に経営者により判断し、
乗務員の競争意識、プロとしてスキルアップ向上
外部団体の表彰の積極的活用を行い、乗務員のプロ意識の向上
- (6) 新型コロナウイルス、インフルエンザ感染症など感染症予防対策
ア. 手洗い、うがい、マスクの着用
- (7) 職場環境の充実
イクボスや女性の働きやすい職場環境（YES運動）、山形健康企業宣言など
社員が働きやすい職場環境を整備することにより乗務員の健康管理、安全運転
につなげる努力をする。
- (8) 社会貢献・SDGs、ESGを目指して
地域との共生社会においてSDGs、ESGの推進を目指していきます。
また地域の子ども達と活性化のため様々なチャレンジ、イベント、探求学習に
積極的に取り組んでいきます。
- (9) 健康管理の重要性、取り組み
健康診断は年2回を実施し、SAS、脳ドック、視野検査、心疾患検査など
健康を維持するべく健康診断の結果に基づき、多様に検査を受診させる。
- (10) 安全装置の強化と安全創出
C46を計画性をもって導入する。
追突防止、巻き込み防止図り、運行管理の面でも乗務員の個人の運転傾向の
把握を努め、指導教育に生かしていく。